

委員の皆様からいただいた御意見について（第 32 期青少年問題協議会第 7 回専門委員会）

資料2	令和6年8月29日
	第32期青少年問題協議会 第8回専門委員会

(1) 計画の基本的な考え方（案）への御意見

No.	御意見の内容
1	地域の人々について、計画上の位置付けは。多様な主体が協力し、計画を具体化していくことをしっかりと計画に示す必要がある。

(2) 子ども・若者の意見の政策反映についてへの御意見

No.	御意見の内容
1	子どもが子どもの場で意見を伝えることも重要であると同時に、大人と子どもが交わる場で、どのように設定していくか、お互い意見もきちんと述べる環境を作ることが必要である。
2	子どもの参画について、ロジャー・ハートは「参画のはしご」の中で子どもが主体的に関わる程度が大きくなることだけがよいのではなく、段階に応じて子どもの成長発達に応じて対応が必要であると説明している。区としても子どもが提案し、大人とともに決定していく仕組みの予算事業があるとよいのではないか。
3	子どもの参加や意見表明反映事業として子ども参加型の事業と、政策や計画の評価検証として、現行の子どもの権利委員会や青少年問題協議会に並べて子ども若者の意見を聞くことを位置付けられるとよい。
4	SDG s のような区が全庁を挙げて取り組む内容と連動させた事業とできれば豊島区独自の施策となるのではないか。
5	「子ども・若者の政策反映」といっても展開の仕方は様々なので、どのように事業として位置付けていくのが課題。
6	校則を生徒とともに見直していくといった区の事業は、ただ議論をするだけではなく、本当に子どもに優しい学校を作っていくために、先生と生徒という縦の関係ではなく、ともに同じステークホルダーという意識をもった取組となれば、他自治体にとっても参考になる区独自の取組になるのではないかと思う。
7	子ども会議の中で、子ども若者総合計画の計画期間である 5 年間で、子ども主体の学校づくり・クラスづくり、などテーマを決めて取り組むこともできると思う。
8	自治体の計画や行政に対して子ども・若者の参加の窓口をどのように作るのが課題と思う。子ども・若者と一緒に施策を進めるためには、意見形成をサポートするファシリテーターの存在が必要である。

(3) 施策体系について

No.	御意見の内容
1	若者支援へ向けた課題整理と施策・指標は再考が必要であると感じる。
2	日々の出来事を話したり、悩みを相談したりできる人間関係や居場所があるかといった、お互いの繋がりを確認できるような調査項目が必要。
3	若者の安定した生活へ向けた住宅確保や生活費、奨学金の問題等も力をいれていく必要があるのではないか。
4	若者が自分のやりたいことにトライできるような場所を作り、そこで同じ思いを持つ人たちが参加できるようにするような若者の起業・創業支援（トライアル）と環境整備（オープンスペース活用）ができるとよいのでは。
5	実際に活動している NPO や若者が繋がりあって作り出していくとか、こどもの意見表明の機会でも子どもと年齢の近い若者が参加して進められれば、若者の自己肯定感につながり、その場もより有効なものになる可能性があると思う。
6	こども大綱ででてきた様々な視点に対して、実際には豊島区で取り組んできたものも含まれる。区は、その豊島区らしさを大事にしながら、それをさらに伸ばしていく方向性で進めていくとよいという印象がある。
7	事業と指標とのつながりを整理していくことは難しいが、専門家の意見を聴きつつ、子どもについてわからないことは子どもに聞くということを行っていくことがよいのでは。それを区が示せるとよい。